

『 南の国サモア 』

学校名・名前・担当教科： 明石市立野々池中学校・小倉 寛樹（保健体育）
 実践教科 : 総合的な学習の時間
 指導時数 : 3 時間
 対象学年 : 中学 1 年生 対象人数 : 213 人

<教師海外研修を通して感じたこと>

サモアに出発する前に一番不安だったのは、現地での授業実践であった。授業対象学年や場所など、不確定な要素が多く、なかなか授業のイメージができなかった。しかし、実際にサモアの子どもたちに会い、体育の授業をしてみると本当に笑顔いっぱい、とても楽しそうに授業に参加してくれ感激した。帰国後に写真を見ても、本当に素敵なかつやかで、その笑顔を見ているだけで自分自身も元気になることができた。

日々の中学校生活の中で、これほど満面の笑みを見る機会は、そう多くないと感じたが、本當は、日本の授業の中でも、サモアの子どもたちと同じような笑顔を、見ることできなければならぬと感じた。開発教育に取り組むことはとても大切なことで、これから、様々な場面でサモアでの経験をふまえた話をしたいと思っている。同時に、教師としてステップアップすることが、生徒の理解を深めるためには、大切だと感じた。

教師海外研修に参加して私は、ココが変わった！

BEFORE

- ・日本に比べ、経済的に遅れており、人々の暮らしも、貧しいと思っていた。
- ・スポーツなどあまりしたことがなく、体育の授業などには、積極的に参加しないのではないかと思っていた。
- ・開発教育・国際協力などは、限られた人たちの話で、普段の自分自身の生活には直結しない事だと感じていた。

AFTER

- ・サモアは経済的には、日本ほど豊かではないが、そこに暮らす人々は明るく、独自の社会システムの中で協力し合いながら生活しており、人とのつながりの深さを感じた。
- ・サモアの生徒は、本当に素敵なかつやかで、授業に取り組んでくれ、体育の授業の楽しさを自分自身も再認識した。
- ・生徒だけでなく、保護者や他の教師にもサモアのことや JICA の事業を知つてもらいたいと思い、機会があれば PR 活動を行うようになった。

授業の詳細

1. カリキュラム

(1) 実践的目的/背景

野々池中学校では、総合的な学習の時間として、週1時間がカリキュラムに組まれている。今回のサモアに関する授業は、行事の合間の総合的な学習の時間を利用して実施することになった。対象の生徒は、1年生6クラス全員で、合計の生徒数は213名である。授業構成を簡単に説明すると、1時間目は、クラスごとに教室で、サモアについての基礎知識について学ぶ、サモアの文化を理解するという内容である。2時間目は、学年集会の形をとり、学年全員を武道場に集め、クラス対抗のサモアクイズなどをおこない、その後、JICAに関する基礎知識と現地で出会った青年海外協力隊からのビデオメッセージを流すという内容で実施した。3時間目は、3学期の2月に実施する予定であるが、キャリア教育の一環として実施する職業学習の中で、JICAの職員もしくは青年海外協力隊の経験者の話を聞く授業を予定している。

(生徒観)

野々池中学校37期生の1年生の生徒は、明るく元気で、授業においても積極的に発言することができるところがとても良いところである。まだまだ、幼いところもあり、うまく人間関係を作ることが難しいこともあるが、行事などでは、クラスや学年一丸となって協力し、盛り上がることができる。サモアに行く前に、生徒に「サモアという国を知っている人」と聞いても誰も知っている生徒はいなかった。また、JICAについても、誰も知らなかった。このように、まだまだ、国際理解についての知識のない生徒であるが、興味のあることがらに対しては、積極的に学ぶ姿勢を持っている。

(教材観)

教師海外研修に参加し、自分自身が日本の国際支援の現状や、開発途上国の問題点などを知ることができた。生徒にとって、サモアという国はほとんど知らない国である。身近な教師が、そのような遠い国に行くというだけで興味深く感じるものであり、そこでどんなことがあったかを知りたいという気持ちになる。まだまだ、中学1年生なので、外国に興味のある生徒も少ない中で、広く海外に関心を持つきっかけにするには、適した教材である。

(指導観)

今回の授業では、まず、サモアという国を知りそこでの暮らしや文化を理解させたい。そのうえで、青年海外協力隊のメッセージを聞き、海外で活躍する日本人を身近に感じ、国際協力に興味関心を持たせたい。また、写真や動画など視聴覚教材を用いて、生徒にとって遠い国サモアについての理解を深めさせたい。そして、日本から遠く離れた島国で、生活する同じ中学生の様子やたくましさを感じさせ、自分自身や今の日本について考えさせたい。教師自身も感動した海外で頑張る日本の若者の姿や話を聞き、自分にできる国際協力について考え、将来の自分の生き方について考えるきっかけにさせたい。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 時限目 サモアに関する基礎知識を学ぶ	<p>①日本とサモアの位置関係や地球全体から見た日本など、グーグルアースを使いながら確認する。</p> <p>②サモアの基礎データについて質問し、明石市や日本と比較しながら、その違いを知る。</p> <p>③サモアの伝統料理であるウム料理について質問し、日本との調理方法や食材の違いについて知る。</p> <p>④フォトランゲージを行う。グループで考え発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン、プロジェクト ・パワーポイント教材 ・グーグルアース ・インターネット接続環境 ・生徒用プリント ・フォトランゲージ用写真 ・サモアの普段着(ラバラバ)
2 時限目 サモアの文化を学ぶ サモアで活躍する日本人について知る	<p>①各クラス抽選で、考えるモノを選ぶ。担任も入ってそのモノが、何かを考え、時間がきたら、クラス代表が発表する。</p> <p>②サモア OXクイズを全員で行う。 正解者が、2~3名になるまで、続ける。</p> <p>③教師が海外研修で、感じたことを話す。サモアで働く、青年海外協力隊から受けた印象など生徒に話し、最後に協力隊からのメッセージや活動の様子を見せる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン、プロジェクト ・パワーポイント教材 ・青年海外協力隊からのビデオメッセージ ・サモアの物(各クラス分) ・サモアのおみやげ ・サモアクイズ ・生徒用感想用紙 ・サモアの普段着(ラバラバ)
3 時限目 日本の国際協力について学ぶ	<p>①実際に国際協力の場で働く人の話を聞き、理解を深める。</p> <p>②2年生で実施される、トライやる・ウィークに向けての職業学習の一環とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・派遣講師 ・生徒用プリント

2. 授業の詳細

1 時限目 「サモアに関する基礎知識を学ぶ」

■目標

- ① 世界の中の日本を考え、日本以外にも様々な国があることを知り、関心を持つ。
- ② サモア独立国の基本的な内容について理解する。
- ③ 写真や動画を見て、異国の文化や習慣を理解し、日本との違いについて考える。

■内容

- ① 日本とサモアの位置関係や地球全体から見た日本などグーグルアースを使いながら確認する。
- ・野々池中学校から、サモアまでの実際の経路をグーグルアースでたどり、日本から遠い国であることを実感させる。



- ② サモアの基礎データについて質問し、明石市や日本と比較しながら、その違いを知る。

グーグルアースから始まった1時間目

- ・人口、面積、宗教、日本からの距離などについて、日本や明石市など身近なものと比較しながら学ぶ。
- (例えば、明石市の人口は、約29万人に対して、サモアは、約18万人であることを知り、興味を高める。)



- ③ サモアの伝統料理であるウム料理について質問し、日本との調理方法や食材の違いについて知る。

ウム料理には驚きいっぱい

- ・ブレッドフルーツやウム料理の写真を見せ、これが何であるかを考えるところから始める。
- ・実際に豚などの食材が並べられた写真を見せ、日本との文化の違いと、日々の食事は命を頂いていることであることを実感させる。



- ④ フォトランゲージを行う。生徒を6班に分け、そのすべての班に同じ写真を配布し、写真から読み取れる内容を考え、発表する。

何の写真か相談中

- ・サモアの教室の後ろに座っていた子どもの写真を見せる。
 - ・班ごとに協力して、考えを発表する。
 - ・すべての班の発表後、授業中に子どもが教室の後ろでパンを食べている写真を見せる。
- サモアの学校では、生徒以外に先生の子どもや近所の子どもなどが教室に入り出し、日本では考えられない学校生活があることを知る。



- ⑤ サモアの中学生がヤシの木に登り、ココナッツの実を取っている動画を見せる。

授業中にパンを食べる子どもの写真



<ココがポイント>

生徒が授業への興味を持つように、教師は、現地で購入したラバラバという衣装で授業に臨んだ。地球の大きさを実感させ、同じ地球にある国なのに、今まで自分が想像もしないような国があることを知る。自分たちが住む明石市のデータとサモアのデータを比較することで、遠い国を身近に感じさせることができた。また、本校では、どの教科においてもグループ討議を授業の中に取り入れている。フォトランゲージでは、写真から読み取る作業を班で協力して行う態度を養うことも目的として実施した。

◎生徒の反応

まず、教師が着ている衣装に興味津々であった。テレビなど準備している段階から、「先生なんでスカート履いてるん？」と多くの生徒が近寄ってきた。

また、授業の中で教師から話した、「サモアの学校では、遅刻をしたり、悪いことをすると罰として、農作業や教師の昼食を作る」という話が、とても印象に残ったようである。最後に見せた、サモアの生徒がココナツの木に登り、ココナツの実を取る動画は、生徒には衝撃的であったようで、まさに、文化の違いを実感できたと感じた。

◎生徒の感想

- ・思っていたよりサバイバル的な感じもなく、自然が豊かでのびのびした生活が送れそうな国だと思った。
- ・最初、先生の服装を見たときは、「ありえへん」と思ったけど、サモアにはサモアらしい服でピッタリだなと思った。
- ・もう少し貧しい国だと思ったけど、思ったより食糧もあって充実しているような感じだった。
- ・ご飯はおいしそうやけど、豚とか目の前で殺すのは残酷やなと思った。でも、食事のありがたさとか、すごくわかるんだろうなと思った。
- ・あんな高いところに、するすると登ってすごかった。
- ・第一印象は、楽しそうだった。理由は、写真に写っている人は、みんな笑顔だったから。

生徒の感想ワークシート

--	--	--

2時限目 「サモアのモノから文化を学ぶ サモアで活躍する日本人からのメッセージ」

■目標

- ① サモアから持ち帰った日用品や民芸品に触れ、サモアの文化を体感する。
- ② サモアに関するクイズを学年で行い、楽しみながらサモアへの理解を深める。
- ③ 教師が出会ったサモアで活躍する日本人の話を聞き、国際協力に対する理解を深める。

■内容

- ① サモアから持ち帰ったモノを各クラスに渡し、クラスで協力してそれが何なのか、何に使われる物なのかを考え発表する。
- ・評議員が中心となってクラスをまとめるように指導した。
 - 話し合いがスムーズに進むように、教師からの助言を行った。
 - ・用意したモノは、
①カバ儀式用の器 ②カバを飲むためのコップ ③ムチ
④ヤシの繊維で作ったタワシ ⑤皮むき用の缶 ⑥バイオごみ袋
の6点である。
 - ・クラスでまとめた意見を発表し、正解した2つのクラスにお土産のキーフォルダーを賞品として用意した。



評議員による抽選の様子

- ② サモアの○×クイズを全員で行う。武道館をロープで右と左に仕切り、正解だと思う方に移動する。正解者が、2~3名になるまで続ける。

- ・○×クイズ用に考えた質問は、「サモアの人口は明石市よりも多い? ○か×か?」など、1時間目に学習した内容を盛り込み、ただのクイズ大会に終わらないように配慮した。
- ・最後まで残った2名に、賞品としてサモアのコインを用意した。



クラスで相談する様子

- ③ 教師が海外研修で感じたことを話す。サモアで出会った青年海外協力隊の方から受けた印象など生徒に話し、最後に協力隊員からの、生徒へのメッセージビデオで見せる。

- ・クイズで盛り上がった雰囲気を切り替え、落ち着いた雰囲気を作る。クラスの評議員が号令かけ、クラスを入場した隊形に整列させる。
- ・教師から、JICAでの国際協力事業について説明した。その後、サモアで活躍する青年海外協力隊員からの、メッセージビデオを見ることによって、海外で頑張っている日本人がいることを実感することができた。



○×クイズは個人戦



メッセージを真剣に聞く姿



<ココがポイント>

学年集会形式での授業なので、規律正しく行うことができる環境が大切である。クラスのリーダーたちも、楽しみながらクラスをまとめて討議することができた。最も生徒に共感して欲しいと思っていた「協力隊からのメッセージビデオ」を真剣に受け止めてくれたことが成果であった。

◎生徒の反応

クラス対抗のモノランゲージやサモア〇×クイズは、非常に積極的に参加していた。また、JICAに関する教師からの話や協力隊員からのメッセージビデオもしっかり顔をあげて聞く姿が見られた。あつという間の1時間であったが、生徒の心に深く残ったと感じることができた。

◎生徒の感想

- ・働いている人、サモアの子どもたち、みんなが生き生きした表情をしていて、とても優しかったです。私もあんな場所で働いてみたいと思いました。
- ・子どもたちがムチで叩かれるのは、かわいそうだと思った。
- ・JICAというのは、あまりなじみのある言葉ではなかったけど、今回の授業でJICAのことが分かりました。
- ・日本で使われなくなったフェリーを使っていたけど、新しいのが欲しくないのかなと思いました。
- ・サモアの人たちは、自然を大切にしていると思いました。
- ・私は外国に行ったことがないので、一回でも行って、他の国のことを探りたいと思いました。
- ・サモアで働いている日本人を見て、すごく頑張っているなと感じました。私もそんな人になりたいと思いました。

3時限目 「日本の国際協力について学ぶ」

3学期の2月に講師を招き実施予定

3. 成果と課題

サモアではたくさんの出会いがあった。サモアの文化に触れたり、その国でしか見たり、感じたりできない事もたくさんあった。その中でも、今回の海外研修で一番の自分の財産になったのは、やはり人との出会いであった。1日目のSagagaで聞いた子どもたちの歌は、一生忘れることができない体験である。身体を前後にゆすりリズムをとりながら歌う、その素晴らしい歌声に心から感動した。そして、サモアで頑張っている日本人にも数多く出会うことができた。言葉ではうまく表現できないが、「生きているな」と感じた。サモアに行く前にはあまり考えていなかった、「現地で頑張る日本人のことを生徒に伝えたい」と考えるようになった。とにかく多くの出会いの中で、自分自身を見つめなおし、日本にいる生徒たちに伝えたいことが、たくさんできた素晴らしい研修であった。

帰国後、本校の生徒に伝えたいことの多さと、その時間がないことに、葛藤する日々であった。その中で、これだけは知って欲しいと願うことを選び、授業を組み立て実践した。生徒にもその思いは伝わったと思っている。また、生徒だけでなく、本校の教師にも簡単な開発教育の手法やサモアでの様子を紹介する講習会を実施した。保護者にも少しでも今回の研修のことを伝えたいと思い、参観日や懇談会の日に掲示物を作成し廊下に掲示した。

今回、授業をする中であらためて大切だと感じたことは、教師と生徒との間により良い人間関

係が存在するかということである。いくら伝えたいことが教師にあっても、「この先生の話を聞きたい」と生徒が思う教師でなければ、生徒にその思いを伝えることはできないと思った。その教師としての土台があつてこそ、講習会で教えて頂いた様々な授業手法も生きてくると思う。今回、1年生に対して3時間という短い時間でしかサモアの授業を実施することができなかった。したがって、今後も伝えきれなったと感じているものを、2年生や3年生となる中で、授業を実施していきたいと考えている。そして、これから授業をもっと有意義なものにするためにも、自分自身の教師としての成長が必要だと感じた。

参考資料

・参考文献

- 『新編中学校社会科地図』(帝国書院)
- 『地球の歩き方 フィジー トンガ サモア』(ダイヤモンド社)

・参考ホームページ URL

外務省 サモア独立国

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/samoa/>

明石市ホームページ

<http://www.city.akashi.hyogo.jp/>

国際機関 太平洋諸島センター

<http://blog.pic.or.jp/>

1時間目のワークシート



サモアの授業の様子を学年通信でPR



参観日に実施した掲示物



教師向け開発教育講座の様子



教師向け開発教育講座の様子

『 豊かさって何？～色々な価値観～ 』

学校名・名前・担当教科： 神戸市立白川台中学校・小林 英里佳（美術）

実践教科 : 総合的な学習の時間、T.C、道徳

指導時数 : 5 時間

対象学年 : 中学2年生 対象人数 : 140人

<教師海外研修を通して感じたこと>

教師海外研修に参加することによって、なぜ教師になったのか、生徒たちに伝えたいこと、自分にしかできないことは何かなど「原点」に返って考えることができた。

サモアで感じたことは、「本当の幸せとは何だろうか」ということである。学校に教科書や文房具などの備品も十分でなく、床に座って一生懸命なまなざしで授業を受けているサモアの子どもたちを見て、日本の生徒たちにも「本当に大切な物」について考えさせたいと思った。そして、サモアで活躍する青年海外協力隊員に出会ったこともとても刺激になった。熱い思いをもって、支援を必要としている国のために奮闘している姿を生徒たちにも紹介したいと思った。

教師海外研修に参加して私は、ココが変わった！

BEFORE

- ①サモアという国についての知識は全くなかった（どこ？という状態）
- ②開発途上国だから、きっと道端に物乞いの子どもとかホームレスがいたりするのかと思っていた。
- ③海外の経験（途上国含）は豊富なほうだが、表面の部分しか見ていなかった。

AFTER

- ①10日間、観光ではなく教育現場やJICAの支援の現場などを見学して、本当に必要な支援とは何かわかった。
- ②自給自足の生活や、家族のつながりが強いサモア人の暮らしを見て、うらやましく思った。幸せそうだと感じた。
- ③その国の表面的なものだけでなく、抱えている問題や、日本とのつながりを考えるようになった。

授業の詳細

1. カリキュラム

(1) 実践の目的/背景

私がサモアで感じたことや考えたこと、価値観が揺さぶられたことを、そのまま生徒たちにも感じてもらいたいと思い授業を構成することにした。授業の度に生徒の考え方や感じることが変わったり、揺さぶれるように少しずつ核心に迫るような授業展開にしたいと考えた。テーマは「価値観の違い」「豊かさ」「国際協力」である。

「価値観の違い」については、サモアの中高生にとったアンケート結果を、本校の2年生の答えと比較したり、現地の生活の様子などを紹介することによって考えさせた。今や、外国人の価値観だけでなく、他者の意見を受け入れられずに人間関係を構築することが苦手な生徒が多いので、みんな違ってみんないいことを伝えたいと思った。

「豊かさ」については一番考えさせたい部分だったので、サモアという国だけに絞らず、様々な国の暮らしを紹介し、自分にとって大切なものは何かを考えさせた。

「国際協力」については、遠い小さな島国サモアと日本のつながりを知ってもらいたいと思い、ODAについて簡単に触れた。その後、青年海外協力隊員の活動について紹介し、自分たちもできる国際協力とは何かと考えさせた。

この教師海外研修で感じたこと、学んだことを私の中だけで消化するのは非常にもったいないと感じたため、同僚の先生方に事前研修を実施し、「豊かさって何?」の授業を、各クラスでおこなってもらった。授業案や教材などは私が用意し、展開などは先生方に任せることとした。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 時限目 サモアを知る サモアあるなしクイズ (In English)	<ul style="list-style-type: none"> google earth を使って、サモアの位置を知る。 プリントを用いて、グループでサモアあるなしクイズをする。(外国人講師と簡単な英単語を用いてゲーム感覚で) サモアのイメージについて感想を書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> google earth 写真 (パワーポイント) 教材プリント
2 時限目 サモアの問題点を知る フォトランゲージ	<ul style="list-style-type: none"> グループにわかれ、写真を見てサモアと日本の違うところを見つける。 サモアの問題点とは何か考えさせる。 グループで出た意見を発表させる。 パワーポイントを使って答え合わせをする。 感想を書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真 (パワーポイント) (グループごと) 教材プリント
3 時限目 サモアの文化に触れる ものランゲージ (In English)	<ul style="list-style-type: none"> グループにわかれ、サモアの生活用品を見て、何に使われているものか考えさせる。 簡単な英語を使って発表させる。 <This is for～.> <It's very～.> <You can use like this.> サモアでとったアンケートと同じ内容の物をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真 (パワーポイント) サモアのもの アンケート

<p>4 時限目 豊かさって何? ～色々な価値観～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サモア、ブータン、ボスニア、日本の4か国の暮らしの写真を並べ、比較して豊かだと思う順に並べさせる。 ・自分にとっての幸せとは何か、大切なものは何か考え、感想を書かせる。 ・サモアの学生と、自分たちのアンケート結果から、価値観の違いについてさらに考えを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材プリント（地球家族） ・ワークシート ・サモアと日本のアンケート比較プリント
<p>5 時限目 1人1人にできること ～国際協力について～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の授業のまとめとして「パパラギ」という本を読む。 * 日本を含む先進国の人と、南の島に暮らす人の価値観や大切に思うものは違うという事に気付かせる。 ・日本とサモアのつながりについて知る。 (どのようなODAが行われているか。青年海外協力隊員からのメッセージ) ・自分にはどのような国際協力ができるのか考えて感想を書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真（パワーポイント） ・ワークシート

2. 授業の詳細

1 時限目 「サモアを知る」 サモアあるなしクイズ

■目標

サモアという国について知る。
開発途上国イメージの幅を広げる。

■内容

- ① サモアの位置をgoogle earthで確認する。
- ② 開発途上国は世界中に何か国あるのか伝える。
- ③ サモアの位置、南の島、開発途上国という3つのキーワードのみ伝えて、サモアにあるか、ないかをグループで考えさせる。
- ④ 写真（パワーポイント）を見て答え合わせ。
- ⑤ サモアについてどう感じたか、感想を書く。



◎生徒の感想

- ・どこが途上国！？と思った。
- ・意外な物があるって意外な物がないのがびっくりした。
- ・心が優しい人がいっぱいいいいい国だなあと思った。
- ・私も行ってみたい。
- ・とてもんびりしている国なんだなあと思った。このような国のように、日本も分け合いという心を持ってほしいと思った。



◎所感

中学1年生、2年生、3年生の全学年にこのあるなしゲームをさせてみたら、それぞれ違う学びがあったため、興味深かった。

1年生は、「開発途上国」という言葉もなじみがなく、いかに狭い世界で生きているのか実感した。2年生は、「開発途上国」についてのだいたいのイメージはあるものの、ほとんどがメディアなどで見る、アフリカの飢餓や貧困のイメージであったようだ。電気、水がないところが「開発途上国」と思っていたようだ。3年生は、開発途上国でも幸せそうに暮らしていることや、日本よりも家族のつながりが強くてうらやましいなどの気づきもあった。

感想を書かせたところ、ほとんどの生徒がサモアに行ってみたいなどの「プラス」のイメージであった。

2時限目 「サモアの問題点を知る」 フォトランゲージ

■目標

サモアと日本の違いを見つける。
サモアの抱える問題に気付く。



■内容

- ① 8種類の写真をグループに1枚配布し、まず日本と違うところを見つける。
- ② サモアの抱える問題点は何か、グループ内で考える。
- ③ グループごとに意見を発表する。
- ④ 写真（パワーポイント）を見て答え合わせをする。
- ⑤ 今回の授業で、サモアについてどうイメージが変わったか感想を書く。



【授業で使用した写真】



① 授業中の様子 1



② 授業中の様子 2



③ 職員室の様子



④ ホームルームの時間



⑤ 街中の様子



⑥ 授業中の様子



⑦食事の様子



⑧スーパーマーケット

◎生徒の感想

- ・日本では子供優先って感じがするのに、サモアは大人優先だと思う。そんなところが開発途上国といわれるのかなと思った。
- ・日本と違うところがたくさんあってびっくりした。ゴミが散乱しているのをなんとかしたほうがいいと思う。
- ・サモアが開発途上国である理由は、輸入に頼ってばかりで自国で作っているものがあまりないことが原因だと思う。
- ・サモアという国は比較的自然が残っている国なので、都市化を進めるのもいいと思うが、自然を残してほしいと思う。そのためにもゴミがココナツの皮のように自然に戻らないということに早く気付いてほしい。

◎所感

前回の授業では、サモアの表面的な、いわゆる「プラス」のイメージについてしか触れなかつたのだが、今回はサモアの抱える問題点として「マイナス」のイメージを紹介した。前回は行ってみたいという生徒が大半だったが、ゴミだらけの街や天井が崩れた教室の様子などを見て、驚いた様子であった。そんな中でも、サモアの人は幸せそうだとか、行ってみたいという意見も少なからずあったことには驚いた。生徒たちのサモアに対するイメージを揺さぶることができたことに関しては成功だったと思う。しかし、写真が多すぎたのでもう少し絞り込めばよかったと思った。

3時限目 「サモアの文化に触れる」 ものランゲージ

■目標

- サモアの生活用品に触れる。
英語を使って生活用品の使い方を説明する。

■内容

- ① グループごとにサモアの生活用品を配布する。
- ② グループ内でこれはどのように使うものか考える。
- ③ 使い方の説明を英語で発表する。
- ④ 写真（パワーポイント）を見て答え合わせをする。
- ⑤ 残りの時間で、サモアの学生に行ったものと同じアンケートを実施する。

〈サモアの生活用品〉

- ココナツの葉でできたお皿
ココナツの葉であんだうちわ
ココナツの殻のコップ、ラバラバ（布）
クリケットのボール、ムチ（儀式用）

Examples for presentation (例)

- This is **for washing clothes.** (これは洗濯用に使います)
- It's very **hard.** (これはとても硬いです)
★ heavy, soft, useful, beautiful, expensive...
- It's made of **wood.** (これは木でできています)
- You can use like this. (このように使えます)
- You can use when it's raining. (雨が降った時に使えます)



◎生徒の反応

過去2回の授業でサモアについての知識を得ていたせいか、使い方をほぼ正しく考えて答えていた。英語での説明も、例文を示したので簡単にできた。

◎所感

アンケートの実施に時間をとったため、あまりゆっくり発表に時間が取れず、残念だった。アンケートは別の時間に実施すべきであった。もっと時間があれば、サモアのダンスなどのビデオも見せたかった。文化に触れる、という点では不十分だったかもしれない。

4時限目 「豊かさって何？～いろいろな価値観～」

■目標

外国の人々の価値観や生活の違いを知る。

外国の人々の価値観の違いに気づき、他者理解とともに自らの生活を振り返る。

■内容

- 「地球家族」という本の中から選んだ4か国、「サモア」「ブータン」「ボスニア」「日本」の暮らしの写真を比べて、豊かだと思う順に並べる。
- その家族のエピソードも読み、考えを深める。
- 自分の考えを発表する。
- 本当の豊かさとは何か？GNH（国民総幸福量）についての紹介する。
- 自分にとっての幸せとは何か、考えたことや感想を書かせる。



◎生徒の感想

- 「経済的な豊かさ」と「人の心」は必ず比例するわけではないことも感じた。
- どこの国でも家族が集まるのが1番幸せなんだと思った。
- 日本は何事もお金で解決しているように見た。私のとっての幸せとは、「きれいでものに不自由せず、家族がいること」でした。でもそれは違うんじゃないかと今日の授業で思いました。そして、今私が思う幸せとは、「家族みんなが笑顔でいること」です。
- 日本は自分のことしか考えていないから、もっと国のことについて考えないといけない。そしたらサモアみたいに「豊か」になれると思う。

◎所感

学年の先生方に事前に研修を行い、各クラスでこの授業を実施した。校内の教員に対し、開発教育について学び、実践する機会が提供できたことは、とてもありがたかった。

生徒の学びは予測していたよりも、深いところまで考えていたように思う。家族の大切さ、文化や国を大切に思う気持ちなど、日本に欠けている価値観にも気づけた生徒が多かった。やや難しい内容なので心配したが、やってよかったと思う。

5時限目 「1人1人にできること」 ～国際協力について～

■目標

サモアと日本のつながりについて知る。
自分が国際協力できることは何かを考える。

■内容

- ① 前回の授業のまとめとして、「パパラギ」という本の一部を抜粋して紹介する。
- ② 日本とサモアのつながりについて、写真（パワーポイント）で説明する。
- ③ サモアで活躍する青年海外協力隊員のメッセージビデオを見せる。
- ④ 青年海外協力隊の要請を紹介する。
- ⑤ 自分にもできる国際協力は何があるのかについて感想を書かせる。

◎生徒の感想

- ・先生の紹介で、（青年海外協力隊が）野球やバレー、ボーラーを教えるとかがあって「これだったら私もできるんじゃないかな」と思った。
- ・私たちが実際現地に行ったり、募金したりするって難しいけど、そんな国があるってことを理解するのが大事なんじゃないかなと思った。
- ・サモアで日本人がいっぱい活躍してるのはめっちゃうれしい。
- ・困っている人に手を差し伸べてあげることはとても大切だと思う。世界中のみんなが笑顔になれるよう、これからもよく理解しあうことが1番だと思った。

◎所感

絵本「パパラギ」は予想以上に子供たちの心に響いたようで、続きを読みたいという生徒もいた。サモア人や途上国の人々が、私たち先進国の人々の時間に追われたり物に執着している様子を不思議に思っていることに対して、目から鱗だったようだ。こちらがよいと思ってやっている支援も、時には途上国の人々のためになっていないのではないか、と考えた生徒もいた。

国際協力については、難しいテーマだったので、前もって朝の読書の時間に、国際協力についての本（1人1人にできること/国際協力機構）を1週間連続で読ませていた。その効果もあってか、「自分たちにもできる事はある」ということを教えてくれたように思う。

3. 成果と課題

計5回の授業を行って感じたことは、もっともっと生徒たちに様々な世界を見せてやりたいということであった。自分のことだけでなく、もう少し周りを見渡して広い視野で考えられるように、国際的に活躍できるような人に、そして、他者の気持ちを考えることができる人を育てていきたいと思った。

反省点は、5回の授業に伝えたいことを詰め込みすぎたことである。もう少し時間が取れれば、国際協力についてもう少し掘り下げて考えさせたり、JICAから出前講座として青年海外協力隊OVの方に来てもらいたかった。これらは今後の課題である。

この5回で終わりではなく、来年度以降も引き続き開発教育について学び、他の国についての授業も紹介できればと考えている。後は、専門分野である美術科の方ではあまり今回の研修を活かしきれなかったので、サモアのタトゥー文化などの授業も展開していきたいと考えている。

参考資料

・参考文献

「地球家族」TOTO出版

「絵本 パパラギ はじめて文明を見た南の島の酋長ツイアビが話したこと」立風書房

「1人1人にできること」国際協力機構

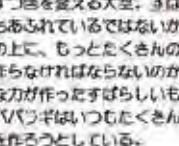
・参考ホームページ URL

[http://www.jica.go.jp/ \(JICA\)](http://www.jica.go.jp/)

そう。いったいどれが私たちより豊かだろう。

自然の大さな力が作った物を、私たちよりたくさん持っているだろうか。

見回してごらん。遠く、空と海がひとつになると、これまで。野原やハチドリやオウハだらが住むジャングル。ナマコや貝やエビ、そのほかの海の動物たちが住む入り江。明るい顔とやわらかな静の肌をもつ浜辺。ときには女神のように目眩まえむ海、また、眼の光を放つ大きな星を持ち、少しずつ色を変える大空。まずはらしい物に満ちあふれているではないか。これらの物の上に、もっとたくさんもの物をどうして作らなければならないのか。自然の大さな力が作ったすばらしいものがあるのにパパラギはいつもたくさんのおもしろいものを作ろうとしている。



パパラギはいつもたくさんの新しいものを作ろうとしている。おかげで手ははれあがり、顔は灰色になり、背中は曲がってしまった。そしてみわなが、新しいものを喜しがり、あがぬ、自分の前ににおいて歌をささげる。

パパラギは行く先々で、自然の大さな力がつくったものをこわしてしまったあと、こわした物を自分の力で生き返らそうとしているのだ。



パパラギの国には、自分の頭に火の舟を



当てて、自分を殺してしまった人たちがいる。本当の話だよ。智がないなら死んだ日がまだ…この人たちはそう考える。貞寧の国の國には財も持っていないくても、私たちならそれで歌を歌って笑顔でいられるのに。

私はパパラギに呼びかけよう。近づくな。

他の人々よりも豊かになりたいという欲や、やたらに物を作ることや、なんにもならない困窮など。そういうガラクタを持って私たちに近づくな。そんなものは私たちには必要がない。私たちは自然の大さな力からたっぱりいただいた美しい遊びで、じゅうぶん満足している。



自然の大さな力は、私たちが迷わないように、光で道を照らしてくれる。自然の大さな力が照らす光。それは「ましめう」と「ましめういのじゆ」と「ましめう」とのことである。

『 教師海外研修（サモア）を終えて 』

学校名・名前・担当教科： 神戸市立長田中学校・瀧口 麻帆（英語）

実践教科 : 英語 社会 総合学習

指導時数 : 4 時間

対象学年 : 中学2年生 対象人数 : 113人

: 小学6年生 対象人数 : 28人

＜教師海外研修を通して感じたこと＞

まずはこのような機会を与えて頂いたことに感謝しています。出発前から現地での研修、そして事後研修まで私にとって、こんなにも学んだ機会はありませんでした。そして、それを私が教えている子供達に伝えることができ、彼らの思いも知ることができたことは教師としては財産だと思います。サモアという国を全く知らなかったにも関わらず、中には「行ってみたい」「もっと知ってみたい」と思っていた子供達もいました。「ここから国際教育がはじまるのだな」と実感した次第です。これからも私自身勉強し、子供達と共に考えていきたいと思いました。

教師海外研修に参加して私は、ココが変わった！

BEFORE

- ・未知の国
- ・壁のない家？日常生活に興味
- ・食生活はどうなのか？
- ・英語はどこまで通じるのか？
- ・私の防災授業は受け入れられるのか？
- ・生徒は私が「サモアという国に行って勉強してくる」と言っても？？？という反応

AFTER

- ・美しい海と笑顔の人々
- ・壁のある家も多い
- ・学校では壁のない教室もあった
- ・ゆっくりと1日が流れる、子供達がよく働くのにはびっくりした
- ・伝統料理「ウム料理」に対するサモアの人の思いに深いものを感じた
- ・自給自足の生活が成り立っていた
- ・英語は中高生、大人には通じた
- ・津波を経験しているサモアの人々に防災授業はしっかり聞いてもらえたと思う。防災グッズがないのでこれから考えてもらえたならと思う。
- ・「先生、サモアって海きれいだった？」調べたのだろうか・・・

授業の詳細

1. カリキュラム

(1) 実践の目的/背景

自然を知らない子供達、学校が終われば遊ぶ所もなく、スポーツをする所もなく、携帯をいじりながら友達とゲームをしたり、連絡をとりあったりしている・・そんな生徒達にサモア独立国の子供達の生活を伝え、「今、大切なことは何か?」を考えさせたかった。

ベトナムをはじめ多国籍の子供達が多い本校では、外国に対しては違和感なく受け入れることができる。だから、サモアについてはとても興味をもって授業にのぞんでくれた。そして、サモアの子供達の様子を見てとても好意的に思っている。

そんな生徒の様子を見て授業をしていくわけだが、あまりにも伝えたいことが多すぎて、いかにまとめて授業をしていくのかが課題であった。サモア独立国という国を知り、学ぶことによって、それがこれから何らかの生徒の将来へつながればいい・・という思いが伝わったから今回の研修の意味があるのでないかと思う。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 時限目 サモアを知る①	<ul style="list-style-type: none"> ・サモアの地理的概要 社会の先生とタイアップしての授業 グーグルアースを使ってサモアの位置を確認する ・サモアについて サモアの産業や社会的背景について説明する ・瀧口が現地で何をしてきたのかを説明する ・現地で行った防災授業で使った「自分で考える非常持ち出し袋」を配布し、考えさせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン ・プロジェクター ・防災授業でつかつた「自分で考える非常持ち出し袋」
2 時限目 サモアを知る②	<ul style="list-style-type: none"> ・前授業の復習 ・現地から持ち帰ったモノを見せながら、現地の様子などを説明する。 ・サモアの子供達に配布したものと同じアンケートをさせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・サモアのモノ ・アンケート
3 時限目 サモアを知る③ 価値観の違い 自分達の生活のふりかえり・気づき	<ul style="list-style-type: none"> ・サモアの伝統的儀式「カヴァ儀式」他のビデオを見せる（前授業のふりかえり） ・サモアの現状についてパワーポイント、DVDを交えて説明。自分たちと同じ世代の青少年の現状を知るとともに、理解させる。 ・荒川氏から頂いた「あいのり」のDVDを見せ、自分達に何ができるか考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント ・DVD ・「あいのり」のDVD
4 時限目 開発途上国について知る。JICA 秋山さん来校講演会「世界って大きな1つの家族」	<ul style="list-style-type: none"> ・サモア以外の開発途上国についても現状を説明 ・フェアトレードについて説明 フェアトレードの物を買うことだけでも途上国に協力することになることを伝える * 国際協力への姿勢や、今から何ができるかを考えさせるきっかけとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント

2. 授業の詳細

1 時限目 「サモアを知る①」

■目標

- ・サモアのイメージを共有する

■内容

- ① サモアの位置を確認する。
グーグルアースを使用。
- ② サモアの産業などについて説明する。
サモアの特産物、自給自足が成り立っていること、
日本も色んな形で支援していること。
- ③ 瀧口が何をするためにサモアへ行ったのか説明する。



<ココがポイント>

まず、「サモアってどこ？」が、生徒の疑問である。疑問を解決した後、サモアで何を見てきたかを簡単に説明する。



レファガ中高の子供たち



モアタ小学校の子どもたち



野菜マーケット

◎生徒の反応

「サモアってどこにあると思う？」という問い合わせに様々な意見を出した生徒達。しかし、実際に場所を知り、2日間かかって着いたと教えると「へえ～」と意外な顔をしていた。

◎生徒の感想

- ・木に登って果物を取ったりするという生活が一番驚きました。
- ・サモアの持つ技術は日本と比べるとかなり遅れている。でもサモアにはサモアの独自の習慣と文化がある。日本にはないような文化・暮らししぶりがあって開発途上国ではあるがとてもいい国だと思った。



フリーマーケットで働く人

2時限目 「サモアを知る②」

■目標

- ・サモアのイメージをさらに高める
- ・文化・慣習を知る

■内容

- ① クラスを6つに分け、それぞれに現地で購入してきたモノを置いていく。
- ② 置かれたモノが何に使われるモノなのか一人ずつ紙に書かせ黒板に貼らせる。
(黒板にはモノの写真が貼ってある)
- ③ 1つずつそれが何なのか説明していく



<ココがポイント>

とにかく生徒達が見たことがないようなおもしろいモノを見せてサモアのイメージを膨らませる。



国旗を背景に



子供たちの授業の様子

- ④ アンケートの配布・生徒記入



<ココがポイント>

ここではあえて現地でとったアンケート結果のことは触れなかった。次回の授業で触れることにする。

◎生徒の反応

今まで見たことがないようなモノが並び、？？？の表情をしながら考える生徒達。そしてそれが何かわかったかを知ると不思議な表情をしていた。「サモアってどんな国なんだろう？」さらにイメージが膨らんだ。

◎生徒の感想

- ・サモアの人は自分達の文化をすごく大切にしていてすごいなと思いました。今の日本は外国の文化が交っていて日本の文化を細かく知っている人は少ないと思います。サモアの文化を教えてもらってとても楽しそうだなと思いました。これを機会に僕も自分の国の文化は知っておきたいなと感じました。今回はサモアの事だったけど、今度は他の国の文化・習慣についても勉強したいなと思います。
- ・カヴァの儀式というのがあることを知り、そしてそれで使うコップみたいなもので飲み物を飲むというのに興味をもちました。

3時限目 「サモアを知る③」

■目標

- ・実際に画像見せてサモアの文化・慣習についての知識を深める
- ・本校生のアンケートの集計結果と現地の生徒のアンケートの集計結果の違いを考えさせる

■内容

この日は「長田南区域学校園人権教育推進協議会
神戸市教育委員会研究指定」での授業であった。
(場所：本校体育館)

- ① パワーポイントを使って今までの復習を行う。
- ② サモアの伝統儀式「カヴァ儀式」他映像を見せながらサモアの文化・慣習・生活などを説明していく
- ③ サモアの課題（例えばゴミ問題・教育問題など）についても説明する。
- ④ 荒川共生氏から頂いたテレビ番組「あいのり」のDVDを見せ、「自分達にできること」を考えるきっかけとする。
- ⑤ サモアの生徒のアンケート集計結果と本校生徒にとったアンケート集計結果を配布し、価値観の違い、生活の違いを感じさせる。



<ココがポイント>

今まであえて映像を見せずにサモアという国のイメージを持たせていた。この授業で今までのサモアのイメージ、学んだことがどう膨らむかが楽しみだった。



<ココがポイント>

価値観の違いを知り、自分達の生活と比較し考えることも大切だが、それだけでは自分達の暮らしが豊かである・・で終わってしまう。サモアの抱える問題、また日本が支援していることを知り次回へつなげたい。



本校2年生の授業の様子



本校2年生の授業の様子

◎生徒の反応

今まで見たことのない映像を見て画面にくらいつくように見ていた。そして、サモアの抱える問題点について触れた時は真剣に話を聞いていた。何かを感じたのだろう・・

◎生徒の感想

- ・サモアのことを学習する前は、日本が一番良くて、技術が進歩し豊かな暮らしができるのが幸せだと思っていたが、そうではなかった。技術が進歩した中で暮らす私達の社会にはいじめや、犯罪がある。人の温かさを知らない子供もいます。サモアの人達は自分達のことを幸せだと思っています。技術は進歩していなくても人々が支え合い、助け合いながら生きているサモアの社会はしっかり成り立っていると思います。
- ・We are happy!と言うサモアの人達を見て開発途上国だけどいい国なんだなあと思いました。先進国よりもいいのかなあと思いました。

4時限目 「開発途上国を知る」JICA 秋山玲美さん講演会

■目標

テーマ

「世界って、大きな1つの家族」

■内容

- ① ご自身の経験談（青年海外協力隊時代）
- ② JICAについて
- ③ フェアトレードとは？
- ④ 世界は一つにつながっている、日本も他国に支えられている。では、日本は他国、特に「開発途上国」には何ができるのだろうか？



講演会タイトル



<ココがポイント>

わかりやすいパワーポイントを使っての開発途上国についての説明、話であった。

実際にフェアトレードのモノを持参し、視覚で講演していただいたことは、とても生徒の心には入っていった。

JICAについてもわかりやすく説明して頂いたので、「神戸にもそんな所があるんだ」と思った生徒達も多かった。



秋山玲美さんの講演の様子

◎生徒の反応

わかりやすい説明であったため、生徒達は真剣に聞いていた。開発途上国についての知識も高まったようであり、フェアトレードの商品をきっと生徒達は買うであろうと思われる反応であった。

◎生徒の感想

- ・今日の講演会でJICAについてよくわかりました。JICAから派遣された日本人が色々な国へ行き、技術を伝授したり、医療関係の支援もしていることなどたくさん教えて頂きました。外国と繋がりをもつことでこんなにみんなが幸せになれるんだと思い、すごいなと思いました。タイトルが「世界って1つの家族」というのを見て、不思議に思っていたけど最後までお話を聞きその意味がよくわかりました。私達が当たり前に食べている物や衣類などはほとんど開発途上国からの輸入で、それがなければ私達は生活することができない、つまり、お互いに繋がっていてお互いが幸せに暮らせる…フェアトレードの話も聞き、その意味もよく分かりました。開発途上国が作ってくれた食べ物や物を大切にしようと思います。今日はとてもよい勉強になりました。

◎所感

サモアへ行くと決まった時、自分にとっても未知の国へ行くということに大変喜んだことを覚えている。自分なりに下調べもした。そして一緒に同行する仲間との出会いもとても貴重なものとなつた。現地で防災授業をすることはチャレンジだった。果たしてその授業がどう伝わるのかとても不安だった。しかし、津波を経験した日本とサモアの共通点はとても大きいと思う。サモアの被災地を訪れた時に現地の学校の生徒の話や先生の話を聞き、私達にも共通する心があると確信した。

私は教師であるので、学校現場の様子を見てきた。生徒達のあふれんばかりの笑顔が印象に残っている。私の名前を何回も何回も呼んでくれた生徒達、しかし彼らの学習環境は日本に比べはるかに悪い状況だった。机がそろっていない、椅子もない、黒板は古びている、教科書はない。生徒はペンとノートを持って床に座っている。図書室の床は今にも抜け落ちそうであり、読めるような本は無い。紙があまり無いのでプリントも十分に配布できない。これが当たり前だと思っているのならあまりにも悲しいことである。私は持っていた紙類、折り紙、そして持参していった「非常持ち出し袋」を現地の学校の先生に渡した。特に「非常持ち出し袋」については「このようなものは無い」と興味をもったようであった。

ホームステイ先では手厚いお持てなしを受けた。客とホームステイ先の主人が先にご飯を食べ、残ったものを夫人、子供たちが食べる習慣が確立している。実際にステイをし、現地の子供たちが「家族が一番大切」と言っていた意味がよくわかった。思ったよりも食べ物はふんだんにあり、自給自足の生活が成り立っている。エチオピアなどのように、子供がやせ細って死に至るという現実はないようだ。

私達は帰国後に授業をするための資料や物を購入するため、毎日のようにマーケットに出かけた。特に野菜を売るマーケットでは、にぎわってはいるが、何か暗い印象を受けた。海外旅行ではマーケットではよく値切ることがある。私達もサモアで同じようなことをした。サモアのお金「タラ」をあまり持っていないため、「We are poor」と思わず言ってしまった。すると、「We are more poor.」と言われた。啞然として帰ってきた。1タラは日本円で40円ほどである。それを値切ろうとした私の心にかなりの罪悪感が残った。

津波の被災地を訪問した時だった。現地の方が現地のJICAの方に「水の供給の設備をなんとかしてほしい」と訴えた。とても日本を頼りにしている様子だった。確かに何とかしてあげたい。でも、何か腑に落ちないものを感じた。これまでの学校訪問、人々の生活をも思い出して・・・あまりよくない表現かもしれないが、「他国の援助を待っている」という感じがしてならなかつた。誰かが何とかしてくれる・・そういう風にも受け取れた。私達日本人も戦争に負け、多くの物を失った。しかし、日本人はなんとかしてはい上がり、今の日本を築きあげた。

サモアの教育環境の悪さも、サモアの人の力で良くならないなら、他国の人と共に技術を学びよくしていってほしい。水の供給の設備についても技術を学び、自分達でもなんとか頑張ってほしい。そのための開発援助ではないかと考える。サモアはとても美しく、素敵な国だ。だからこそ、私達日本人や他国のボランティアが現地で活動をしているなら、そこで技術を学びもっと住みよい国になってほしい。現地で日の丸を背負って頑張っている協力隊員の皆さんを私は誇りに思った。

3. 成果と課題

生徒達は「サモア独立国」という今まで知らなかった国について知り、これから何らかの形でその名前を目にした時、きっとこの4時間の授業を思い出すだろう。日付変更線が変わり、サモアが世界で一番朝が来るのが早いとされたことが新聞に載っていた。それを知った生徒はきっとサモアの話を家族でも話をしていると信じたい。私の今後の課題としては、もっとサモアだけでなく開発途上国について、そして今そういう国々で起こっている事実を知り学ぶ必要があると思う。この度の研修がそのスタートだと考えている。私達はinputすることは簡単だが、outputすることはなかなか難しい。でもそれをしていくのが私達教師の役目であると思

っている。

参考資料

・参考文献

「神戸新聞社 阪神・淡路大震災写真集」

・参考ホームページ URL

<http://www.tos-land.net/>



Please tell us . . .

1. How do you spend after school?

I go home at my mom and my dad are working at home for me. Eat my food and do my home work. And after I go to sleep.

2. How do you spend in your weekends or holidays?

On weekends I go to the market and buy our things for home and on Sunday I go to church every Sunday.

3. What is your dream?

My dream is to be a doctor in Japan look after the kids in Japan.

4. What do you want Samoa to be like in the future?

Samoa people are very clever people so our mission is to teach for creation. Future is

5. Could you write a message to Japanese students?

Talofa lava. My name is Ko Thank you for visit and God bless you and Japan students.

6. What is your message?

I want to give my hole life to Jesus and give all things people all over the world. Amen.

Thank you!

Biko An Pae

